

子どもが自ら育つのを助ける、モンテッソーリ教育

記事のURL

<https://www.gklibrarykor.com/ja/article/10145/>

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

幼い子どもに水の入ったピッチャーを渡すと、大人はたいていこぼすのではないかと心配して先に手を伸ばします。ところが、子どもの手に合う小さなピッチャーとコップを用意して待っていれば、子どもは何度かこぼしながらも、やがて自分で水を注ぐ方法を身につけます。教える人が一步下がるとき、子どもはより多くを学ぶわけです。このように、子どもが自分で選び、やってみながら学べるよう助ける教育方法が「モンテッソーリ教育 (Montessori Education)」です。モンテッソーリ教育とは、簡単に言えば「子どもを学ぼうとする力を生まれ持った存在とみなし、よく整えられた環境の中で自ら活動を選び、手を使って身につけながら育つよう助ける教育方法」を意味します。イタリアの医師であり教育者でもあるマリア・モンテッソーリ (Maria Montessori) が20世紀初めに生み出し、現在では世界各地の公立・私立学校で取り入れられています。本資料では、モンテッソーリ教育が生まれた背景と教室を形づくる核となる原理、子どもの発達を捉える視点、そして今日この教育が受けている評価まで、順に見ていきます。自分でする力を育てる教室、モンテッソーリ教育 モンテッソーリ教育はどのように始まったのか? モンテッソーリ教育は、教室ではなく病院と観察から出発しました。そのためモンテッソーリは、自らの方法を「科学的教育学」と呼ぶことがあ